

平成 21 年 3 月 10 日

上町台地マイルドH O P Eゾーン事業 まちづくり提案事業助成 事業報告書

1 申請団体・グループ名

からほり倶楽部(空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト)

共同事業者名 (いる場合のみ記入してください)

ロジモク研究会

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(C S C D)

上町台地コミュニケーション・ルーム(U-C o R o)

(特活)レスキューストックヤード

2 事業のテーマ・タイトル

ロジモク減災～路地と長屋のまち「空堀」から減災をめざす第1章

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
6 月	20 日：協働者との企画内容(減災ゲーム)の検討・共有
7 月	4 日『減災ゲーム・クロスロード大会』 9 日：協働者との企画内容(全体)の検討・共有
8 月	18 日：協働者との企画内容(全体)の検討・共有 下旬：U-C o R oでの展示企画における「上町台地地形模型」の、U-C o R oプロジェクト・ワーキングとの共同製作
9 月	1 日：勉強会打ち合わせ 9 日～11 日「先進事例調査(東京都墨田区向島地区、台東区・文京区谷根千地区、新宿区神楽坂地区)」の実施 墨田区案内＝小川幸男氏(墨田区区民活動推進部部長) 谷根千案内＝手嶋尚人氏(東京家政大学造形表現学科准教授) 神楽坂案内＝木村晃郁氏(全国路地のまち連絡協議会事務局長)
10 月	6 日：勉強会打ち合わせ
11 月	10 日：勉強会打ち合わせ 14 日『上町地史学講座・歴史と地理から浮き彫りにする地域の弱点』① 「地震の日本史～歴史から見える地震・自信から見える歴史」 講師＝寒川旭氏(産業技術総合研究所関西センター招聘研究員)
12 月	3 日：協働者との企画内容(勉強会・減災キャラバン)の検討・共有 12 日『上町地史学講座・歴史と地理から浮き彫りにする地域の弱点』② 「秀吉の上町台地改造について～大阪府庁地区の発掘調査から～」 講師＝鋤柄俊夫氏(同志社大学文化情報学部文化情報学科准教授)
1 月	8 日：勉強会・減災キャラバン打ち合わせ 9 日：協働者との企画実施に向けた最終協議・段取り等確認 9 日『減災キャラバン on 上町台地』プレー・トーク 31 日『上町地史学講座・歴史と地理から浮き彫りにする地域の弱点』③ 「神戸長田聞き歩きツアー～震災から 14 年のまちへ」 ナビゲーター＝松原永季氏(スタジオ・カタリスト代表)

2 月	2 日：勉強会・減災キャラバン打ち合わせ 19 日『見える分かる地域防災マップの作り方』 「防災マップの基本のキ～流行の地域マップづくりの真の目的は」 講師＝寺本弘伸氏((特活)日本災害救援ボランティアネットワーク常務理事 9 日：協働者との上町台地地形模型の移設検討 1～28 日『現在キャラバン on 上町台地』巡回パネル展(「練」、「萌」など 4 カ所)及びリレー・トーク(4 回)の実施 27 日「上町台地地形模型」の U-C o R o から「練」への移設と再展示
-----	--

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	事業開始前は地域住民も含めた広範な巻き込みやアプローチを考えていました。しかし、土地や建物の所有関係が複雑であり、地域への誇りや愛着も強い空堀界限では、防災・減災についてのアプローチを一つ誤ると、次への歩みが止まりかねない危険性が想像以上に高いことが分かりました。 そこで、ロジモク減災第 1 章では、地域特性を共有し、ともにアプローチ方法を考えていける講師陣やネットワークを獲得することに、より重きを置きました。 【効果】 ◇ 地域住民への減災・防災アプローチ手法の獲得 講師陣による楽しく分かりやすい勉強会は、地域住民へもおだやかに防災・減災について考えるキッカケを示す可能性を見出せました。今回試行した勉強会は、次年度ではより広く告知を行いながら、実施していけるプログラムであることが学べました。 ◇ 講師陣との出会いとつながり 勉強会での講師陣には、上町断層や東南海地震などと向き合わなければならない空堀界限や上町台地に、強い興味と関心をいただいてもらえました。また、行政の防災関係者や近隣学校の教職員など参加者が講師陣とつながりを得られたほか、主催者であるからほり倶楽部と講師陣に次へつながる信頼関係も得られました。その結果、講師陣からもまち歩きなど「次の一手」の提案もいただいています。 ◇ 「減災キャラバン on 上町台地」や「U-C o R o」など上町台地上での他事業との連携実現 「ロジモク減災」を立ち上げたことで名古屋の災害救援 N P O とつながり、減災や災害復興に関する全国各地の智恵を集めた冊子「いのちをまもる智恵」の巡回パネル展とリレー・トークを共催することが出来ました。その会場として、からほり倶楽部サイドではお屋敷再生施設「練」と文化複合施設「萌」を提供しましたが、他の会場である「應典院」の應典院寺町倶楽部、「高津宮」の氏子さんたちとよりつながりをつくる機会も得られました。 また、上町台地コミュニケーション・ルーム「U-C o R o」での展示企画とタイアップした「減災ゲーム・クロスロード大会」の開催、上町台地地形模型の製作が展開できました。さらに、展示
-----	--

	終了後の同地形模型の「練」への移設と再展示が、今回の提案助成を受けたおかげでスムーズに実現することが出来ました。 【課題】 ◇ 近隣学校とのオフィシャルな事業連携 今回は、からほり倶楽部が近隣の学校とつながる場「上町台地・学園サミット」を通じて、勉強会などへの教職員の参加も得られました。そこでは、勉強会や地域マップに関する個々の学校との協働についても意見交換を行いました。学校での事業計画は前年度の早い段階で確定するため、年度内での本格的な協働の実現は困難となりました。そのため、「減災マップづくり」は作成前の勉強会として位置づけを変えて実施しました。 今後は大阪府教育センターと協働化について検討を深めながら、家庭科クラブなど比較的融通の利きやすい学校部活動との協働をまずはめざしたいと考えます。 ◇ 勉強会内容など結果・成果の公表 今回は提案助成事業に選定いただけたため、講師候補の選出や勉強会の試行をかなり展開することが出来ました。そこでの結果も非常に参考となるものでしたが、その内容を概略でも広く伝えていく手立てを考える必要と考えます。 現時点ではその取り組みが出来ていませんが、次年度の早い段階でロジック減災を次へつなげるためにも、勉強会等の結果や成果を伝える努力をしたいと思います。
今後の展望	次年度の取り組み ◇ 地域住民への段階的アプローチ 上町断層や上町台地の地形特性など微妙なテーマについて、地域住民に無用の刺激を与えないよう留意しつつ、分かりやすく伝えていく段階的アプローチへ歩みを進めたいと考えます。 今回の提案助成事業で出会えた講師陣は、全員、空堀の事情を理解して下さり、継続的な協力を確約していただきました。その力を借りつつ、次へのアプローチにチャレンジしたいと思います。 ◇ 減災マップづくりの試行 大阪府教育センターや近隣高等学校の家庭科クラブなどと協働で、今年度実施できなかった「減災マップづくり」を試行したいと考えます。そのステップを経て、平成 22 年度には広範な参画を呼びかけての「減災マップづくり」に進めればと思います。 ◇ 他地域との連携の強化 今秋、神戸市内で開催予定の「全国路地サミット」に減災の立ち位置から参加し、提案助成事業で交流を築いた東京の向島地区や神楽坂地区、神戸長田地区の人々とのつながりをより深めたいと考えます。 また、路地と町家、歴史的街並みを抱える京都や奈良とのつながりも築いていきたいと思っています。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。